激辛通信 ピリッ

市議レポート６号

2006 年 10 月／11 月

みやけ　えいこ
三宅 英子
武蔵野市議会議員・無所属
１ 期目・（会派）むさしのリニューアル
〒180-0001 武蔵野市吉祥寺北町 3-5-13-101
TEL&FAX：0422-51-4422

http://miyakeeiko.com

武蔵野市の「負の遺産」を検証する

●全国で有数の「裕福なまち」と言われてきた武蔵野市は、土屋前市長のもと過去２１年間にわたってさまざまな事業・大型施設建設を進めてきました。しかし、現在、住民の高齢化などで２極化が進行し、セイフティネットの構築など行政が担う新たな役割が求められています。今回、決算特別委員会の質疑の中で、邑上市長が市民との協働の仕組みを行政側の手法として取り入れたことは明確になったものの、実際の会計責任者の答弁などからは財政運営への姿勢が相変わらず前市政のままで、今後の課題をマクロ的に捉えた視点がほとんど感じられませんでした。武蔵野市の過去の問題点を検証し、現状の課題をまとめます。

●（背景）少子高齢化が進み、高齢者の一人暮らし世帯が増えている

①武蔵野市の人口分布の現状は、６５歳以上の高齢者が全体の約２割、０～１４歳の人口は約１割、少子高齢化が進んでいます。

表－１ 武蔵野市の人口分布（H18年）

総人口	約１３万4,０００人
６５歳以上の高齢者数	約２万5,０００人
高齢化率	18.7%
一人暮らしの高齢者の比率	約１３％（H16年）
０～１４歳の人口	約１万4,０００人
子どもの人口比率	10.67%

②３つの特別事業会計（国保・老人医療・介護保険）から支出される医療費は年間約２３０億円に上り（表-2）、総決算額（一般会計・４特別会計　総額８８８億円）の約２６％を占め、武蔵野市の財政にとって医療費の負担が年々増大しています。さらに、生活保護費の受給者の５４％は６０歳以上の高齢者で、格差が広がっています。セイフティネットの構築が急務です。

表-２　武蔵野市の医療費給付状況（H17年度決算）

国保事業会計	約６１億円
老人保健会計	約９９億円
介護保険事業会計	約６９億円
医療費給付合計	約２３０億円

●負の遺産 その１　中長期的な戦略が感じられない、高い税収頼み行政の「ゆるい体質」　・・・H17 年度決算特別委員会でわかったこと（9 月 22 日～27 日）

●９月２２日の委員会で収入役に対して下記の質問を行いました。

◎私の質問（市議会の HP で実際のやり取りを録画で見ることができます。）

「団塊の世代がリタイアし、少子高齢化が加速し働く世帯が減ることで、今後個人市民税の減収傾向が続き、将来的に武蔵野市の歳入に影響があると思うがどうか？」

◎収入役の答弁

「武蔵野ブランドが続く限り、一戸建てもマンションも売れ続ける。
武蔵野市で家屋を取得する住民は高額所得者のはずだから税収は減らない。
団塊世代の退職金による住民税収入も見込める。」

表－３　貸借対照表【3市の財政比較】

（単位：億円）	武蔵野市	三鷹市	西東京市
資産	3,120	2,509	2,326
負債	677	881	706
うち借入金（市債）	490	710	470

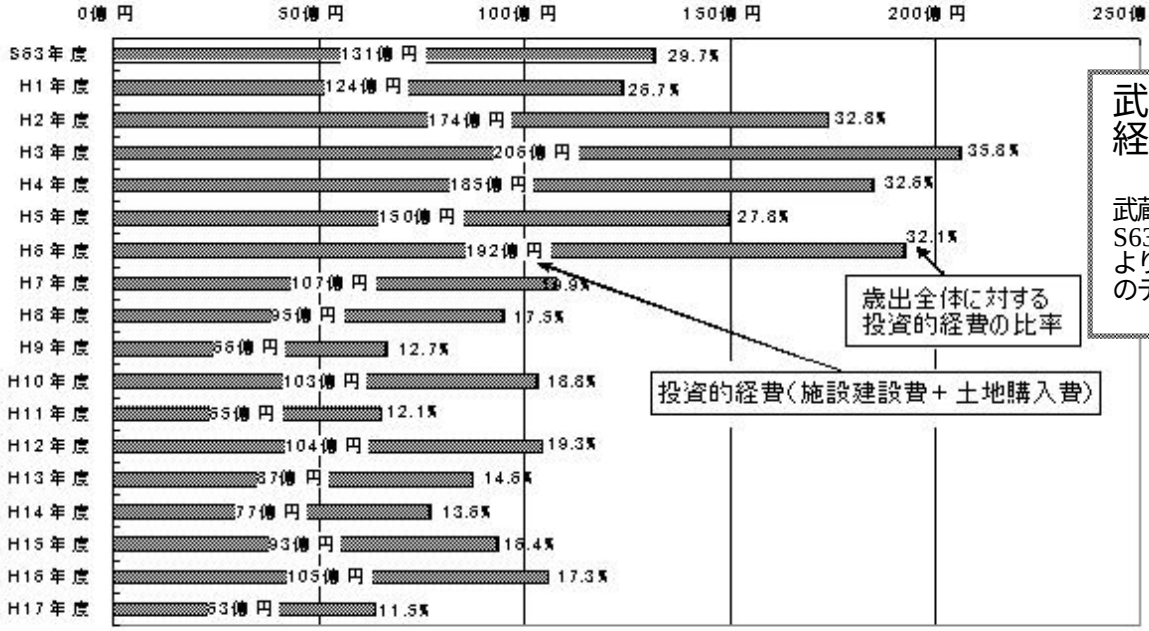
連結決算Ｈ１６年度(年次財務報告書H17)

表-４　武蔵野市の財政（Ｈ１７年度決算）

	歳入	歳出
	内、一般会計からの繰入金	
１．一般会計	５８０億円	５５１億円
２．特別会計		
1)下水道事業会計	４０億円（7.5億円）	４０億円
2)国民健康保険事業会計	９５億円（１５億円）	９５億円
3)老人保健（医療）会計	９９億円（６億円）	９９億円
4)介護保険事業会計	７４億円（１２億円）	７３億円
合　計	８８８億円（40.5億円）	８５８億円
３．水道事業会計	３６億円	３２億円

●確かに、これまで市内ＮＴＴからの大口の法人市民税が時折入るという幸運もあって、資産の状況は他市を上回っています（表－３）。また、財政力指数（1.503）・経常収支比率（80.8%）も相対的に良好ですが、これらはあくまでも単年度の収支を基準にした指数に過ぎません。連結会計では、武蔵野市の負債は６７７億円、うち借入金（市債）は４９０億円に上り（同じく表－３）、今後の厳しい社会状況等を考えると、決して楽観できる状況ではありません。収入役の答弁はバブル期の不動産業者の言葉のようで、危機感の欠落を感じました。豊かな税収に馴れきった「ゆるんだ体質」と将来への危機感の欠如こそ、今の武蔵野市の大きな課題だと感じます。

●「負の遺産」その２　武蔵野市がこれまで支出してきた大型施設の建設費と土地購入費は２１年間で合計「約2,４９０億円」



武蔵野市の投資的経費支出の推移

武蔵野市の「決算参考資料」S63～H17 年度性質別支出より抽出。（S59～62 年度のデータは省略）

●この結果、武蔵野市の課題として残ったことは・・・

①公共施設の改修が進まず、長期的な計画もない・・・武蔵野市の公共施設の減価償却費は累計で約２６０億円となっています「年次財務報告書（H17 年）」。これは帳簿上、現在の公共施設の資産価値がこの分だけ低下していることを示すもので、施設全体の改修費用の目安となる数値ですが、一般会計予算の約半分に上る額となっています。これまで新たな施設づくりが政策の中心であった結果、優先順位をつけた全体的な公共施設の改修計画がなく、H16 年にようやく方針が公表されただけです。その結果、公会堂はすでに築４２年を経過して老朽化が進み、市民が日常的に利用する施設で多くの利用者が不便を感じる状況があります。市庁舎（S５５年建設）の修繕計画作りにやっと予算が計上されたばかりです。

② 施設維持管理費が年間約 38 億円（H15 年現在）以上●高いランニングコストが市の財政を圧迫

③ 小中学校の施設格差ができた・・・武蔵野市では２３区の平均的な建設費用より大幅に高額な予算で「千川小学校（約４７億円）」「大野田小学校（約３２億円）」などの豪華な学校建設が行われました。他の小中学校ではトイレなどの改修も進まず、数年前からやっと改善が始まりました。

④ 「学童クラブ」の小学校内への移転進まず・・・親が働く家庭の小学校３年生までの子どもを放課後預かる学童クラブ（市内１１カ所）は大体が古い施設です。三鷹市が新たな施設建設を行っているのに比べると、武蔵野市では学校内に設置されてないケースが多く、貧弱な状況が続いています。地下室にあった北町こどもクラブが昨年９月に豪雨で浸水し、邑上市長になってからやっと第４小学校への移転が実現しました。

⑤ 古い建物を生かして使う発想・アイディアがない・・・使われていない旧桜堤小学校・旧中央図書館はほとんど利用されず、都内で進んでいる廃校利用（世田谷ものづくり学校）などのような発想がありません。

⑥ マンションの耐震診断ただ今申し込みゼロ●S56 年以前に建築の市内のマンションは１３３棟（総棟数３１６棟の４２%）ありますが、今まで市の耐震診断助成を受けた実績はなく、安全性確保が大きな課題として残されています。

●結論　今回の決算特別委員会で、自民などの保守系議員から「なぜ、あそこの土地を買わなかったのか？」などとバブル期のような質問が数多く出ました。また、アレもコレもと要望する議員が多く、武蔵野市の財政をマクロ的な視点で捉えた上での質問が相変わらず乏しいのが実情でした。財政について大局的、長期的な視点を持って質問し、場合によっては人気取り的な施策の見直しを迫るなど、市政運営全体をチェックすることが市議には本来求められているはずです。そのためには、行政側の答弁を鵜呑みにするのではなく、自分なりの客観的なデータや裏付けを持った上で行政側に切り返す力をつけることが重要です。私自身それが十分にできているとはとても言えませんが、少なくとも市議はそういう問題意識を持たないと、「これまでの２１年間」と同じ結果を繰り返すことになるのではないでしょうか？

●私の報酬の内訳【2005 年度（H17）】税込み

毎月の議員報酬	12ヶ月分 550,000×12	6,600,000
期末手当	H17年6月	1,353,000
同上	H17年12月	1,386,000
同上	H18年3月	198,000
市政調査研究費	12ヶ月分 40,000×12	480,000
委員会日当	12,000×3	36,000
合　計		10,053,000

●三宅 英子（みやけえいこ）プロフィール✱1948 年 杉並区生まれ、 共立女子大学文芸学部卒業後、三菱商事入社。その後、武蔵野市に暮らし、1999 年武蔵野市の市長・市役所交際費の住民訴訟を起こし 2002 年 訴えた６件の内５件で勝訴（６月東京地裁）。東京高裁の判決では３件で勝訴、現在も最高裁で審理中